

2021 年夏季インターンの感想

1 所属：東京大学4年生

UTEcon のインターンに応募したのは、専門性の高い分析であれば自分のバックグラウンドが活き、かつコンサルティング業務を通じて守備範囲を広げることができるだろうという目論見からでした。実際、インターンでは分析から提案の作成まで幅広く関わらせて貰いました。経済系の教員が各プロジェクトに入っていて、毎回のミーティングで議論が交わされるのも非常に新鮮に感じました。ここまで「ちゃんとした分析」ができるところも、インターン生が大きなプロジェクトに深く関わっていけるところも、UTEcon ならではの良いところだと思います。おかげで、充実した夏休みを過ごすことができました。インターン応募の書類選考は少しいかつく、他のインターンよりもハードルが高く映るかもしれません。しかし今年のインターン生は私を含め半分以上が経済系ではありませんでしたし、基本的には書類選考が一番の山になっているそうですので、興味がある人はぜひ果敢にチャレンジしてみて欲しいです。

2 所属：東京大学大学院経済学研究科修士課程

UTEcon のインターンに応募した理由は、経済学がどのように実務に役立っているのか、また役立てるにはどのような努力が必要なのか知りたかったからです。インターンでは、複数のプロジェクトと社内業務に関わらせていただきました。どのプロジェクトでも、経済学の知識は当然のこと、お客様が抱く問題を経済学的に分析可能な形に落とし込む作業が最も大切で難しいと感じました。その為に社員の方々は、制度や背景の理解、念入りなコミュニケーションを欠かさず行っていました。社内業務では、優しくやる気に溢れた方ばかりでしたので、私も日々楽しくお手伝いできました。結果インターンに参加したことで、当初の疑問が氷解するだけでなく、一人で研究するだけでは得られない貴重な経験ができました。

3 所属：京都大学農学部3年生

本インターンでは、UTEcon チームの一員として、多才かつ多彩なメンバーにまじり、実際のプロジェクトに携わります。リサーチアシスタントを含むチームのメンバーは、鋭い思考力と高い分析能力を持ち、さらにそれぞれが独自の強みを持っています。一緒に仕事をする中で、良い意味で奮い立たせられ、日々成長を感じる刺激的な毎日でした。また、業務を通して、大学で学んだ学問としての経済学を実社会に応用することを経験し、経済学が非常に強い道具であることを実感すると同時に、それを操るための知識や能力がいかに不足しているかに気づくことができました。将来、胸をはって経済学を使った社会貢献ができるように、今後も学び、努力し続けます。一カ月が本当にあっという間だったと思うほど、充実した日々を過ごすことができました。ありがとうございました。